

カレッジ里山 花実の森 活動報告(2019年7月) 第113号

活動日 2019年 7月 21日(日)	時間 9:30~13:00	天候 (晴)	記録者 (菅田)
------------------------	------------------	-------------	---------------

公募参加者 7家族 17名 スタッフ 14名	(スタッフ) 磯野彰夫、 菅田忠志 松本治美 小林澄夫 俵貴志子 橋野美子 山田喜義 田路義弘 塩ノ谷年子 米倉 進、 清水英輔、 中西 優、 佐藤泰仙、 若尾孝子
------------------------------	--

今回実施した 内容	親子カブトムシ生育観察会(2019年第2回 幼虫観察)
	親子自然体験型環境学習として企画し、(公財)こうべ市民福祉振興協会の協力を得て公募した2019年度『親子カブトムシ生育観察会』、年間を通して里山に棲むカブトムシの生育観察をしながら、里山を知り学ぶイベント。今回は3回シリーズの2回目。 (1) 成虫観察(成虫探し)で、見つけた成虫のオスを家族に1匹ずつ自宅飼育用に持ち帰ってもらった。 (2) 5月の1回目で子どもたちと一緒に作った今年の成虫の産卵場所の経過観察。順調に腐葉土化が進み異常は認められなかった。今年のメスの産卵を期待したい。10月に予定している3回目の観察会時に子どもたちに「新しい命」を確認してもらう。 (3) 今回の後半の時間では、里山内で集めた小枝・木の葉を使った『クラフト・アート』を作り、おみやげとして持ち帰ってもらった。夏休みの宿題ができたかな？

写真記録



受入準備 里山内散策道の直近整備の刈込作業。この時期の下草の成長は早く、追っかけっこ状況。



受入準備
今回は曇天だったので日よけ、雨よけのシートがけは不要。カブトムシ持ち帰り用飼育ケースも準備完了。





参加者が集まりはじめ受付開始



今年は6月の天候不順が影響したのか不明ながらも、今年の成虫の数がかなり少ないことなどを説明。しっかり探すんだよ～。



今回は、「里山に棲むカブトムシの一生」の説明も、5月の第1回の際にも実施していることから、今回は“おさらい”の意味も踏まえて参加児童の中からにやってもらった。手をあげて発表してくれた〇〇君、しっかり説明できたね。わかりやすかったよ。



さあ 観察小屋へ移動開始。期待が膨らむ。



さあいるかな？ 中に入って探してみよう。



5月に子どもたちによって150匹を超える幼虫を下から引越してきた生育場所。はたして…。



やっぱり今年はなかなかいないなあ…。それでも見つけ出した子どもたちの歓声がひびく。



林内の観察小屋以外での生育場所も探してみるがやはり成虫は少ない。今年はどうなったのか…？



スタッフメンバーの中で、他の活動先から連れてきてくれた成虫を合わせて、なんとか子どもたちに持ち帰り用として渡すことができた。よかったね。

=====

後半は場所を屋内(ひよどり研修室)に移動し、小枝・木の葉・木の実を使った「里山のクラフト工作」を体験。各自いろいろ工夫をしながら自由な発想で取り組んでもらった。





複雑で難しいところはちょっとお父さんの出番に。



やはりカブトムシが気に入り工作に手が回らない。



どんどん大作が出来上がっていく。夏休みの宿題になるね。



持ち帰った成虫は最後までしっかり世話をするんだよ。次回 10 月 27 日のときに様子を聞かせてください。

次回の案内は後日送るのでよく読んで元気に参加してください。

この事業は、平成 31 年度子どもゆめ基金の活動助成金で実施しました。